

介護支援専門員への指導記録表（記入例）

記録年月日：令和元年 5月 16日

指導担当介護支援専門員所属	居宅 ・ 包括 ・ 施設 その他（ ）	提出事例の種別番号 (別紙2参照)	⑥
対象者の所属	居宅 ・ 包括 ・ 施設	指導方法	
対象者氏名	A 介護支援専門員	面接 ・ 電話 ・ 同行	
指導日時	平成 令和 元年 5月 15日 (水) 15時00分 ～16時20分 計 80分	その他（ ）	
主訴（要点）	キーパーソンとなる夫も認知症、子供がいない、誰がキーパーソン		
利用者	氏名:Bさん	男 ・ 女	85歳
家族構成	高齢者夫婦世帯		
経緯	当地域包括にて総合事業で支援担当していたが、要介護認定となり依頼したケース。高齢者夫婦で子供もおらず、実家とも疎遠、夫も認知症症状が見られてきた。自己負担料金の滞納もあり、利用拒否となっている。食事も偏り主食がカップラーメンとご飯である。夫は自身のお金に執着があり自分の年金は妻には使用したくないと訴える。		
相談者は どうしたいのか	利用者の状態像からサービスを利用して閉じこもりを予防すると共に夫の認知症に伴う支援をどうしていくか、夫以外のキーパーソンを見つけたい。		
利用者にどうなって もらいたいのか	Bさんは出かけて人に自慢したい気質。外出したいが、夫が心配でと話されている。出かけて会話の機会があれば元気になると思う。		
指導の内容 (指導の具体的内容)	Bさんというよりも夫を認知症初期集中支援チームにつなぎ、専門医の受診を勧めてはどうか。Bさんの外出しやすい環境作りと食の確保が必要。利用料金滞納については、事業所と相談し支払い方法の検討。キーパーソンの課題あり。		
指導に対する相談者の反応	できるところから進めていきたい。夫の件についてはぜひ協力と指導をお願いしたい。		
結果	夫を認知症初期集中支援チームに繋げ、精神科受診となるが、その後の通院や内服コントロールがうまくいかない。夫婦での生活である事で利用料金については納得された。Bさんは自分のためと通所介護週1回利用した。		
備考			